

# 世代間交流の居場所づくり

地域名：栃木県塩谷郡塩谷町  
パートナー名：塩谷町役場高齢者支援課・保健福祉課

22班 コミュニティデザイン学科  
建築都市デザイン学科  
社会基盤デザイン学科

石川隼人 横山朋花  
齋藤大毅 武部大夢  
伊藤海里 小島朋也

## 1. 背景

### <少子高齢化>

町内の高齢者人口の増加および年少者の人口減少により高齢者へのケアや子育て支援のさらなる強化が必要

### <地域サロンの運営者の固定化>

運営者の固定化により、「遊び」のマンネリ化  
運営者の高齢化により、長期的なサロン運営に対して不安視

## ・地域サロン「寄ってらっせ」について

「地域の高齢者が気軽に立ち寄れる居場所」



写真1. 「遊び」の様子

- 参加人数：高齢者21名 運営者5名
- 活動日：毎月第2・4火曜日
- 「遊び」の内容：健康体操やカラオケなど

## 4. 分析

### ・アンケート調査結果

映画やテレビゲームなど電子機器を用いた遊びが目立った。一方クリスマス会のような季節性のある遊び、鬼ごっこやボール遊びなどの定番の遊びもほしいという意見も一定数あった。

⇒新たな「遊び」の考案材料へ

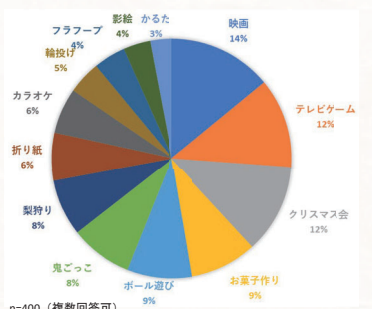


図1. 子どもたちがやりたい遊び

全体の1/4程度が友人・知人からの口コミからの情報収集していた。そのほか回覧板や広報誌、学校・関係機関のような従来からある方法での情報収集が多く、SNSやインターネットからの収集は5%と低かった。

⇒サロンの周知方法の考案材料へ



図2. 保護者が情報を得る媒体

予想以上に子どもたちは校内の掲示物を見ていることが分かった。

⇒サロンの周知方法の考案材料へ

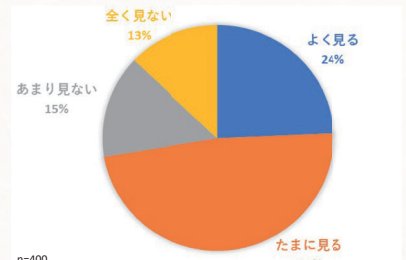


図3. 子供たちの掲示物を閲覧する割合

### ・現地調査結果

子供が来るとサロン利用者は生き生きしてる！

「遊び」のマンネリ化の他に、コロナ禍によって制限が増えた、...



写真2. 現地訪問

離れていながらも、小学生と寄ってらっせが接続する「多世代交流」のあり方を考える

## 2. 目的

I. サロン運営者の世代交代

II. サロン「寄ってらっせ」を世代間交流の場へ

⇒ 運営者の高齢化および企画のマンネリ化の解消

⇒ 現状の高齢者の居場所から世代間交流の場となることで町内の世代交代交流促進と子育て支援の後押しをする

## 3. 調査

### <アンケート調査>

対象：町内の全小学生およびその保護者

期間：10月29日～11月6日

内容：サロンの認知度、やりたい遊び、世代交代交流への意欲・関心など

### <現地調査>

サロン運営者からの聞き取り調査およびサロン、小学校の訪問

## 5. 提案

### ・見えない多世代交流を生む循環システム

寄ってらっせの「遊び」のマンネリ化を解消するために私たちが仲介し、循環システムを構築する(図3)。離れていながらも、「遊び」を共有し、見えない多世代交流が生まれる。

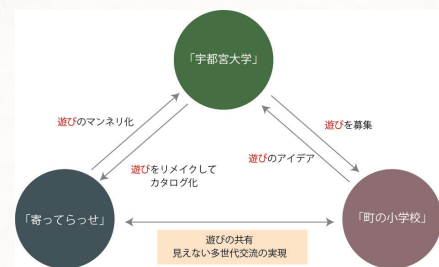


図4. 循環システム

### ・「遊び」のアイデア募集箱

小学生の「遊び」を共有するために募集箱を作成した。募集した「遊び」は高齢者でも、子どもでも楽しめるようにリメイクし、カタログ化する。

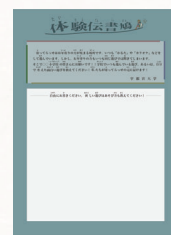


図5. 意見用紙

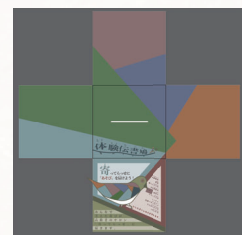


写真3. アイデア募集箱

### ・「遊び」のカタログ化



洗濯バサミすくい

100cm走

ポッチャ

### ・当プロジェクトの持続可能性

第三者と連携した循環システム

データによる共有

カタログのテンプレート化

持続可能な組織づくり